（報道発表資料）
令和２年１２月３１日
北九州市保健福祉局感染症医療政策課
（担当：河崎）
電話：（０９３）５８２－２４３０

報　道　各　位

レジオネラ症の発生について

市内において、レジオネラ症（４類感染症）の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

１　概　　要　令和２年１２月３０日（水）、市内医療機関（八幡東区）からレジオネラ症の発生届出があった。

２　患者情報　八幡西区在住、９８歳、女性

３　経　　過　１２月３０日（水）　発熱（39℃）、咳・痰あり。
市内医療機関を受診。
胸部レントゲンで肺炎像あり。
尿検査の結果、レジオネラ症と診断。

４　現在の状況　入院中（状態は安定している。）

５　感染原因　不明

６　行政対応　患者等に対する健康調査の実施と感染拡大防止の指導を実施。

７　レジオネラ症の北九州市への届出状況（単位：人）

（令和２年１２月３１日現在）

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
発生届出数（単位：人）	１５	２０	１５	１５	１７	１３※

（※本件を含む）

８　その他

患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。

９　レジオネラ症について
別添参照

別添

《レジオネラ症について》

➢ レジオネラ症とは

レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因でおこる感染症です。

急激に重症になって、死亡する場合もあるレジオネラ肺炎と、数日で自然に治る場合が多いポンティアック熱に分けられます。

レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人や、健康な人でも疲労などで体力が落ちている人などが発病しやすいといわれています。

➢ 症状

・レジオネラ肺炎は、高熱、呼吸困難、筋肉痛、吐き気、下痢、意識障害などを主症状とする肺炎で、重症化して死亡する場合もあります。潜伏期間は２～１０日です。

・ポンティアック熱は、発熱、寒気、筋肉痛などを主症状としますが、一般的には比較的軽症で、数日で軽快します。潜伏期間は１～２日です。

➢ レジオネラ属菌とは

レジオネラ症の原因となるレジオネラ属菌は、土の中や河川、湖沼など自然界に生息しています。

➢ 感染経路

レジオネラ症は人から人へは感染しません。

レジオネラ属菌は、もともと土壌や水環境に普通に存在する菌で、目に見えないほどの細かい水滴（エアロゾル）を発生させる人工環境（噴水の水景施設、ビルの屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等）や循環水を利用した風呂が屋内外に多くなっていることなどで、感染する機会が多くなっているものと考えられます。

➢ 感染防止のポイント

・水を利用する器具（加湿器、ミスト発生器など）を使用している場合は、こまめに洗ってヌメリなどを除去し、清潔な水に入れ替えるようにしましょう。

・２４時間風呂などの循環式浴槽は、取扱い説明書に従い循環装置内の洗浄・消毒を徹底しましょう。

・自分自身の免疫力を落とさないように健康管理にも気をつけましょう。